

大学・高専機能強化支援事業
(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)【支援2大学】
事業概要

令和5年7月時点

選定年度	令和5年度	学校コード	F114210104616
大学名	横浜市立大学	設置区分	公立
学校種	大学	都道府県	神奈川県
申請形態	研究科等の設置・増員（一般枠）		

1.事業概要

VUCAの時代と言われる現在、データサイエンティストに対するニーズが非常に高いことからデータサイエンス研究科では、令和7年度にデータサイエンス専攻博士前期課程の入学定員を20名から32名に、ヘルスデータサイエンス専攻博士前期課程の入学定員を12名から15名にそれぞれ増員する予定である。

データサイエンス専攻では、公共政策や経済、環境等の多様な文理融合分野において、ヘルスデータサイエンス専攻では、疾病予防、医療、介護等のヘルス分野において、データサイエンス技術を駆使しながら複雑化する諸課題の発見・解決能力を醸成するカリキュラム編成とし、他大学とも連携・協力しながら高度な「データエンジニアリング力」と「データアナリティクス力」を有する専門人材を育成・輩出する。また、産官学連携については、新たに企画力のあるURAを配置することで、これまで以上に体制強化と社会実装の加速化を図るとともに、データ活用研修やリカレント教育など幅広く展開し実社会に貢献していく。

2.基本情報

大学全体の収容定員数等の変化（予定）

		博士課程	修士課程	大学院計	学士課程
大学全体の情報系組織の収容定員	増員前	18	64	82	
	増員後	18	94	112	
	増分	0	30	30	0
大学の全組織の収容定員	増員前	434	434	868	
	増員後	434	464	898	
情報系組織の収容定員の占める割合	増員前	4.1%	14.7%	9.4%	
	増員後	4.1%	20.3%	12.5%	
	増分	0.0%	5.5%	3.0%	

※正規課程の人数
※令和5年5月1日時点

改組・増員前の組織情報

課程	組織名		入学定員	収容定員	改組時期・内容
博士	情報系	データサイエンス研究科データサイエンス専攻	3	9	
		データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻	3	9	
		計	6	18	
	情報系以外				
		計	0	0	
修士	情報系	データサイエンス研究科データサイエンス専攻	20	40	R7増員
		データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻	12	24	R7増員
		計	32	64	
	情報系以外				
		計	0	0	
学士	情報系				
		計	0	0	
	情報系以外				
		計	0	0	

※情報系組織の改組・増員に関わる組織のみを記入。コース等で実施の場合はコース等単位で記入。
※学士の入学定員には編入学定員を含む。

改組・増員後の組織情報（予定）

課程	組織名		入学定員	収容定員	改組時期・内容	所在地
博士	情報系	データサイエンス研究科データサイエンス専攻	3	9		横浜市金沢区
		データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻	3	9		横浜市金沢区
		計	6	18		
	情報系以外	改組前との差	0	0		
		計	0	0		
修士	情報系	データサイエンス研究科データサイエンス専攻	32	64	R7増員	横浜市金沢区
		データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻	15	30	R7増員	横浜市金沢区
		計	47	94		
		改組前との差	15	30		
	情報系以外					
		計	0	0		
		改組前との差	0	0		
学士	情報系					
		計	0	0		
		改組前との差	0	0		
	情報系以外					
		計	0	0		

改組・増員後の情報系組織の学位分野（予定）

課程	組織名	学位分野（主なもの6つまで）					
博士	データサイエンス研究科データサイエンス専攻	理学関係					
	データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻	理学関係					
修士	データサイエンス研究科データサイエンス専攻	理学関係					
	データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻	理学関係					
学士							

<基本情報>

改組内容：研究科等の設置・増員

情報系組織名：＜修士＞データサイエンス研究科データサイエンス専攻、データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻

情報系組織の入学定員：＜修士＞【R7増員】改組前32名 → 改組後47名

所在地：横浜市金沢区

<背景>

◎産業界では8割を超える企業でDX推進人材が量・質ともに不足を感じている。中でも、**723%の企業が不足を感じているデータサイエンティストのニーズは非常に高い。**※1

◎疾病予防、医療、介護等のヘルス分野でも、少子高齢化に伴う疾病構造の変化や社会保障制度の維持に加え、**新型コロナウイルス感染症のパンデミックに伴い、データサイエンティストの重要性が再認識された。**

※1 独立行政法人情報処理推進機構「DX白書2023」

**社会のイノベーションに貢献する新たなデータサイエンス技術を開発し、
社会実装できるデータサイエンティストの育成・輩出**



データサイエンス研究科

【博士前期課程、博士後期課程】

データサイエンス専攻

【入学定員】 博士前期課程 20名⇒32名
博士後期課程 3名

<進学想定者>

本学データサイエンス学部・他大学データサイエンス関連学部からの進学者、企業等の社会人

ヘルスデータサイエンス専攻

【入学定員】 博士前期課程 12名⇒15名
博士後期課程 3名

<進学想定者>

医学部卒業生、医療機関・ヘルス関連企業・自治体等の社会人、本学データサイエンス学部からの進学者

データサイエンティストの育成・輩出

学位論文作成・学位審査

多様な専門分野の教員を配置し、学生の研究内容に応じ、複数の教員によるきめ細かな研究指導を実施

産学官連携によるデータサイエンス技術を用いた社会実装の経験

自治体や15社以上の企業と包括的基本協定を締結しており、今後URAを雇用し、連携をさらに加速

データエンジニアリング力/データアナリティクス力の修得

データサイエンス技術を駆使しながら複雑化する諸課題の発見・解決能力を醸成するカリキュラム編成し、他大学とも連携・協力しながら高度専門人材を育成

<計画のポイント>

- ◎過去の入試実績に基づく十分な学生確保の見通し※1 ※1 毎年約15名の内部進学者、一般選抜志願倍率2倍程度
- ◎「データエンジニアリング力」及び「データアナリティクス力」を修得する講義・実践的な演習、産学官連携による課題解決型学習及び多様な専門性を有する複数教員による指導を組み合わせた体系的な教育課程の編成
- ◎特定成長分野の人材を育成するための適切な教育環境の整備
- ◎幅広い業界から実務経験の豊富な教員※2を採用し、学生の多様な研究内容に応じたきめ細かな研究指導を実施
- ◎新たにURAを雇用し、自治体や企業等との連携を加速し、社会実装に貢献する人材を育成
- ◎横浜市立をはじめ首都圏の高校への出張授業・説明会を通して、データサイエンス教育の充実化に貢献
- ◎データサイエンス教育に関するリカレント教育への貢献や外部機関との連携した海外学生の受入
- ※2 日本を代表する情報系企業出身の教員、医師・看護師・薬剤師の資格を有する教員